

JAPIA NEWS

2014

11・12

隔月刊

(通巻704号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

特 集

【リクルート特集】 これからの採用活動に おけるキーワードとは…

委員会部会だより

総合技術委員会 基準認証部会

問題解決とメリット共有、
そして海外連携を積極化

会員企業紹介

三和ニードルベアリング 株式会社

支部活動レポート

中部支部

特別寄稿

新たなハイブリッド“48V”



チェック!

チェック!

プラグも

チェック!



お客様の愛車のために

“プラグをチェック”する整備士のみなさんを応援します。

スパークプラグの消耗具合は、クルマの状態によって違います。だから、あなたの目でちゃんとチェックしてほしいのです。プラグが消耗していたら、お客様に交換をオススメしてください。また、問題がないことを伝えるのも、お客様への安心と信頼につながります。



燃費がいい。環境にいい。

NGK スパークプラグ



日本特殊陶業

<http://www.ngk-sparkplugs.jp>

NGKプラグスタジオ

検索



イワタボルトの グローバルネットワーク



国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ (ロサンゼルス・アトランタ・オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ・カナダ

認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA,INC	2010年9月	FM549851	BSI
シンガポール	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	2010年3月	EMS549810	BSI
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTELTD	2009年7月	94-2-0318	PSB
タイ	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTELTD	2010年9月	2004-0265	PSB
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TUV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TUV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TUV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田7丁目21番1号第5TOCビル

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

KOITO

安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111(代表) <http://www.koito.co.jp>

「企業は人材育成」

環境が変化しても

長し続ける

人材を育てる

人材育成制度

036社

目標設定研修

075回

評価者能力研修

538回

昇格者選抜評価

125回

人事・人材開発支援の

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

主な実績企業

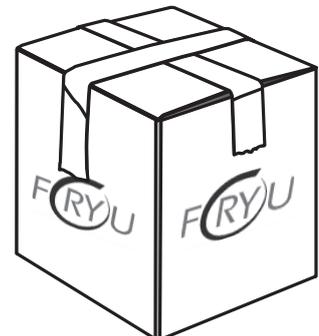
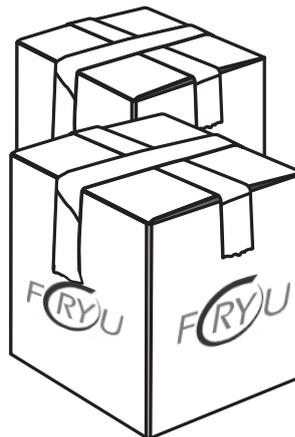
アイシン・エンジニアリング株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
大阪トヨベツト株式会社
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生プレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社
他 (50音順)

日本から中国へ、中国から日本へ、
航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい...

定期便ご利用なら、
¥10,000より

フォーユーエクスプレス

日本 
中国間



同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/



フォーユーエクスプレス 検索



今日も、クルマが、走っている。
地球の果てまで、クルマが、走っている。

クルマがずっと愛されるために

DENSO

www.denso.co.jp

もう、これ以上、自然を汚してはならない。
もう、この惑星を傷つけてはならない。
クルマが、地球とともに生きてゆくために。
そこには、デンソーの環境テクノロジー。
たとえば、ハイブリッド技術や、エンジンの効率アップ。
バイオなど、クリーンエネルギーの開発。
地球がずっと、つづくために。

この惑星を、技術で守りたい。



巻頭言

Introduction

国際環境対応へ スピードアップを



一般社団法人日本自動車部品工業会
副会長・藤森 文雄

[アイシン精機株式会社 取締役社長]

本年5月に新たに国際委員長を拝命致しました藤森でございます。よろしくお願い申し上げます。

去年は消費税引き上げ前の需要などもあり、好調な国内販売、加えて米国を中心とした堅実な海外販売を通して、業界にとって喜ばしい年となりました。しかし、今後業界が成長していく為には、更に海外に主戦場を定めて行かなければならない状況です。非常に厳しい環境ではありますが、多くの皆様と力を合わせ、業界の発展に向け努力してまいりたいと存じます。どうぞご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

既に9月の事ですが、テニスの錦織選手が日本男子として史上初めて、グランドスラムの一つ、全米オープンにおいて決勝進出を果たしました。新聞のトップを大きく飾り、中継局に視聴契約が殺到し、スポンサーの株が跳ね上がる等、大きな話題になった事をご記憶の通りです。しかし残念ながら決勝での錦織選手は、それまで確実に決まっていたショットがなかなか決まらず、『決勝はずっと迷路に入って抜け出せなかった感覚』と試合を振り返っています。『前の試合まで上手く出来ていた事が、何故今はできないのか』との思いにとらわれながら、力尽きてしまった様です。

スポーツの世界では、多くの選手やチームが、一度は華々しい成績を残しながらも、その後その成績を超えることに苦勞した例

が幾つもあります。成功体験を持つ人は『あの時のプレーをもう一度』と思い、同じプレーの再現を追求してしまいます。しかし、残念ながら全ての試合で条件も違い、更に相手の力も変化しているため、同じプレーをする事は難しいものなのです。加えて過去の成功体験が大きければ大きいほど、それにとらわれてしまいます。

勝つためには、常に一勝負ごと気持ちをリセットし、更なる高みを目指し、新たなチャレンジを続ける事が必要なのではないのでしょうか。錦織選手なら必ずや研鑽を重ね、グランドスラム初優勝を勝ち取る事が出来ると期待しています。

振り返って私たち産業界でも、過去の成功体験は必ずしも今に通用するものではないのかも知れません。特に急拡大を続ける新興国市場においては、それぞれに社会環境も異なり、今までの先進国での成功体験は参考にならないのかも知れません。

将来に渡り成功を積み重ねていくためには、絶え間なく変化を続ける市場環境、海外メーカーの動向、要求される技術等に目を光らせながら、過去にとらわれない迅速な対応を重ね、更に何事も恐れず躊躇せず、チャレンジし続けて行くしか選択肢は無いのではないのでしょうか。

国際委員会においては、スピードを上げ変化する国際環境に対応できるよう、情報の収集、発信に努めてまいります。その中

で今年度の重点活動の一つとして、『EPAマトリックスの構築』を取り上げています。EPA協定において、日本が各国と締結している内容は、比較的容易に情報入手できます。一方タイ対マレーシアのEPA協定の様に、他国間の協定の中身は、ほとんど情報入手ができていません。それらを整理し会員企業で共有することで、海外拠点におけるEPAを有効活用し、業界の発展に貢献できればと考えております。

国際委員会においては幾つもの重要テーマを抱えておりますが、部工会各委員会、会員企業の皆様と手を取り合い、日本の部品業界が、並みいる強敵をブレイクし、世界で勝ち抜くための取組みを続けてまいりたいと考えております。是非皆様におかれましても、引き続き部工会活動にご協力、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【リクルート特集】

これからの採用活動におけるキーワードとは… 企業アピールも必要だが業界のアピールも重要

■人手不足とこれからの 採用活動とは？

経団連は13年9月、全会員約1300社が守るべきとした「採用選考に関する指針」を定めた。これは、従来からの採用活動の自主ルールである「採用選考に関する企業の倫理憲章」を見直して、名称も変更したもの。これに合わせて「採用選考に関する企業の倫理憲章の理解を深めるための参考資料」も「『採用選考に関する指針』の手引き」に名称を変更した。

指針では①公平・公正な採用の徹底②正常な学校教育と学習環境の確保③採用選考活動早期開始の自粛—などへの十分な配慮を求めている。公平・公正で透明な採用の徹底では、男女雇用機会均等法や雇用対策法に沿った採用選考活動を行い、学生の自由な就職活動を妨げる行為（正式内定日前の誓約書要求など）は一切しないとした。また、大学所在地による不利が生じないように留意することとしている。また、正常な学校教育と学習環境の確保では、在学全期間を通して知性、能力と人格を磨き、社会に貢献できる人材を育成、輩出する高等教育の趣旨を踏まえ、採用選考活動にあたっては、正常な学校教育と学習環境の確保に

協力し、大学等の学事日程を尊重するとした。さらに、採用選考活動については、学生が本分である学業に専念する十分な時間を確保するため、採用選考活動の早期開始を自粛することとした。

指針の実効性確保について経団連では「他の経済団体や大学、就職情報会社などと連携して検討する」としているが、解禁日の設定が形骸化する懸念は捨てきれない。これに先立ち、旧憲章に基づいて展開する2015年4月入社予定の採用活動は、大手企業分に関してはすでに終盤戦を迎えているようだ。選考活動は4月に始まったが、すでに実質的な内定を出す企業が続出している模様。安倍政権の経済政策「アベノミクス」効果による景気回復と、それに伴う人手不足感を背景に企業では採用意欲を強めている。採用基準を緩め、量の確保を優先する企業も出てきたとされる。優秀な学生を確保するため早くから動く企業の動きに、学生側も敏感に反応しているようだ。

■学生エンジニアの本音と 魅力ある業界づくりとは？

日本自動車部品工業会と日刊自動車新聞社は、9月に開催された「第12回全日本学生フォーミュラ大会」で学生の自動車業界



学生フォーミュラ大会ではスポンサーブースも盛況。部品メーカーも自社製品のアピールや若手エンジニアとの交流を活発に行っていた

に対する就職活動の意識などについて調査した。

大会参加校のうち35校・約200人から回答を得て、これを集計している。「就職先として自動車業界を志望しているか？」との問いには、「志望している」と回答した学生が5割強、「興味・関心がある」と答えた学生も4割を占める結果となった。自動車に関心の高い学生を対象にした調査だが、9割を大きく上回る学生が自動車業界を就職先として考えている。

「志望している」「興味・関心がある」と回答した学生が望んでいる業種では、志望する学生が63.9%に達した「自動車メーカー」が最も多く、「自動車部品メーカー」が24.6%、「自動車ディーラー」を志望する学生は6.6%という結果になった。チューニングメーカーなどの志望先が見られた「その他」とする回答も4.9%あった。

自動車メーカーを志望する理由としては「自動車の設計がしたい」「エンジンの研究・開発をやりたい」「自分でデザインをしてみたい」などの回答が目立つ。また、自動車部品メーカーを希望する学生では「部品の設計をしてみたい」「加工に興味がある」

学生フォーミュラの参加学生アンケート 結果

回答数196人 複数回答可

Q あなたにとって就職先を選定する情報源として重要な項目は何ですか？	比率 (%)
先生や先輩、知人	75.0
学校への求人情報	46.4
企業訪問	38.8
インターネット検索	36.2
就職セミナーなど	33.2
求人サイト活用	25.5
雑誌、新聞など	14.8
その他	1.5

回答数196人 複数回答可

Q 入社希望として強くこだわる企業の条件とは？	比率 (%)
仕事の内容	58.7
将来性	55.1
給与・待遇面	51.5
社風・風土・経営理念など	41.3
企業及びトップの考え方	29.1
取り扱い商品	17.9
企業規模（売上高、利益、社員数など）	16.3
認知度の高さ	15.3
その他	2.6

といった理由のほかに、「小さなことを知らずに大きなものは造れない」「細かいパーツの重要さを分かってきた気がする」といった意見も聞かれた。

こうした学生たちが自動車業界への就職を志望したり、興味・関心を持ったきっかけや理由では「F1を見て」「フォーミュラプロジェクトに参加したい」など、モータースポーツに魅了されて職業選択のきっかけとしている意見が少なくなかった。また、学生フォーミュラを通じて車の設計・開発や構造、生産方法、ものづくりなどに興味を持ったことで自動車業界を志す学生も多いようだ。

このほかには「小さい頃から自動車が好きだった」「気づいたら車に興味を持っていた」との理由や、「親が車好きだった」「祖父、父が自動車業界で働いている」などの

育った家庭環境によって子供の頃から車好きだったことを理由に、“自分の好きなことを仕事にしたい”との思いで就職を希望する学生もいる。車のゲームや自動車開発のドキュメンタリー番組をきっかけに挙げる学生もいた。

一方、就職先を選定する情報源で重視するものを聞いた質問（複数回答）では、「先生や先輩、知人」が75・0%で圧倒的に多かった。これに「学校への求人情報」の46・4%、「企業訪問」の38・8%、「インターネット検索」の36・2%などが続いている。こうした中で就活サイトの活用も25・5%となっており、利用が増加している。

また、入社で強くこだわる企業の条件（複数回答）については、「仕事の内容」とする回答が6割近くに達しており、これに「将来性」「給与・待遇」が続いている。ただ、就職を希望する企業の「社風・風土・経営理念」「企業及びトップの考え方」などにこだわりを見せる学生も少なくなかった。このほかには「取り扱い商品」「企業規模（売上高や利益、社員数など）」「認知度」などを条件とする学生がほぼ同水準となっている。

いずれにせよ自動車業界への理解度は高いといえるが、自動車部品業界に限っていうと意外に低い。その業界全体の認知度向上も今後の課題の一つといえるだろう。

■企業の採用基準と方向性

部品メーカーは、リーマンショックや東日本大震災を乗り越え、新たな成長への動きを加速している。この原動力となるのが“人”だ。日刊自動車新聞では部品メーカー

各社の採用担当者に優秀な人材を獲得するための方策などについて聞く「人財発掘」を掲載している。（一部抜粋）

○デンソー

『『世界初を生み出し続ける企業』がデンソーの目指す姿。そのために『自ら学び、自ら考え、新たな価値の実現に向けて挑戦し続けていく人』を採用のキーワードにしている。女性や外国人の技術者も積極的に迎え入れて人材の多様性を確保したい』

○日本精工

「応募者が良くも悪くも真面目。優秀なのは重要だが、多様性も欲しい。理系文系を問わず、尖った人材が少ない気がする。『学業以外で何をしてきたか』を問うようにし、学校や学部は基本的に見ないし、国籍も問わない」

○クラリオン

「国内の人員は減らしていかざるを得ないが、海外はビジネスが増えるので海外赴任できることが大前提。新興国やこれまでビジネスのなかった国で、小さな事務所で机一つでもやっていけるチャレンジ精神を持つ人を採用したい」

○ヨロズ

「活躍の場が海外に移るため、海外に行けることが第一の採用基準だ。リーダーシップやコミュニケーション能力がある人、異文化を理解する力や困難にぶつかってもあきらめずにやり遂げる精神力も必要だ」

○アルプス電気

「来てほしい人材は、アルプス電気を利用して実現したい夢がある人、我々の仕事に興味、関心、好奇心がある人。3年前から、

現場の女性エンジニアとの座談会形式で理系女子限定の説明会も実施している。女性の力を生かす場もさらに増えていく」

○ニッパツ

「メーカーであるがために、どうしても

自前主義になりがちで、大胆になりきれない面がある。広い視野で判断できる人が必要になる。製造専任職（技能系）向けの教育制度をつくることも必要だと考えている」

コラム

「インターンシップと理系女子」～ボッシュの業界認知活動の試み～

ひとことで採用活動といっても企業側から見た場合、学生など対象とする人たちに「業態、業界」と「会社名」をきちんと理解してもらわなければ、採用のスタートラインにも立てない。そうした認知度を少しでも高めようとする活動の事例として技術職の「インターンシップ」と「理系女子」というキーワードで「ボッシュ」に話を聞いた。

「インターンシップ」はアメリカから広まった職業体験制度。欧米では大学との連携により、授業の単位として認められており、半年～1年程度の長期に渡って、学生が企業の研修生として働くことだ。日本でもボッシュは外国人留学生を積極的に、長期のインターンとして受け入れている。

高いスキルを持った学生が職場に入ることによって社内の活性化にもつながる。ボッシュでは日本人学生のインターンも受け入れているが、大学側の単位制度やインターンシップへの理解度、学生の時間的制約などの課題もあるという。ただし、国としてインターンシップを推奨する動きが出てきていることから将来的には導入するハードルが下がる可能性も高い。受け入れ企業としては学生に「どの部門で、何をしてもらおうか？」という体制作りが一番時間がかかるともいう。そして日本で

実施されているインターンシップについては就業体験の重要性や「業界を理解してもらうため」の活動という認識が企業側にも必要となっている。

「理系女子」はエンジニア系への女性活用を狙う企業と理系で学ぶ女子学生の就職先拡大の活動により生まれてきた言葉だが、マッチングを積極的に図ることによる成功事例が徐々にではあるが増えているという。ボッシュでは単独でも理系女子大学学生へのアプローチも積極的に実施しているが、経産省や異業種企業とのコラボレーションにより、理系女子大学生への職業プロモーションも昨年度より行っている。経産省から国としての取り組みを紹介してもらった後、ボッシュを含む参加企業各社から仕事内容や女性インフラともいえる結婚時、出産時などの待遇環境と実際の経験者からの事例報告を聞く場面として好評だという。

またイベント活動としては女性対象のレーシングカート体験会や自動車技術系展示会での理系女子大学生向けガイダンス付ツアーの実施などユニークな取り組みが多い。これも知名度がハードルだともいうが、少ない参加者でも確実に会社の内容を知ってもらう機会として、今後も様々な企画を検討している。



今年の「人とくるまのテクノロジー展」では展示会全体のツアーを理系女子に向けて行った



経産省、異業種連携の理系女子大生向けイベントでは、より本音に近い意見交換も行われた



新たなハイブリッド “48V”

株式会社ローランド・ベルガー

日本共同代表 シニアパートナー 長島 聡
 コンサルタント 高野 飛鳥

■ 48Vハイブリッドの成り立ち

過去数十年、自動車の電装部品は、シャーシ制御、安全性向上、快適性向上を目指して、増加の一途をたどってきました。特に、プレミアムカーにおいてはその傾向が顕著で、従来の12Vバッテリーでは電源不足が指摘されるようになってきました。また、2021年に95gのCO₂規制が迫る中、大きな台数が期待できないEVやFCVではなく、小型車から大型車まで幅広い車種に投入できる燃費向上アプローチが必要となってきたのです。

そこで、ドイツメーカー各社は、日本に先行されたフルハイブリッドではなく、欧州の強みであるダウンサイジングエンジンを活かした更なる燃費向上アプローチを模索したのです。これが48Vのハイブリッドシステムで

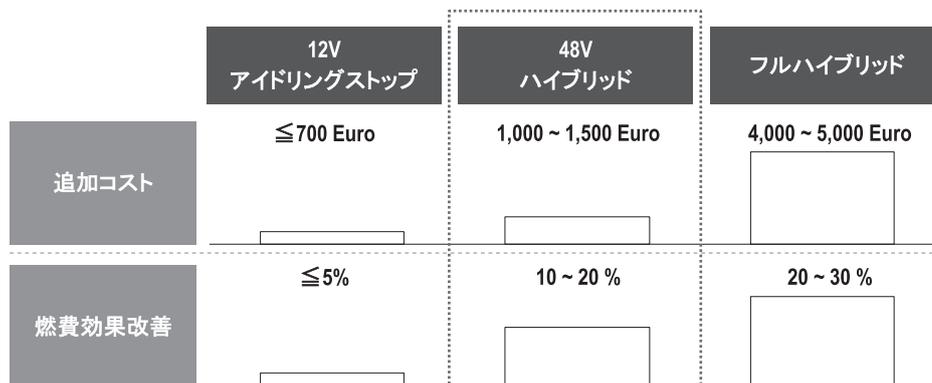
す。2011年、アウディ、BMW、ダイムラー、フォルクスワーゲン、ポルシェのドイツ自動車5社が共同で、48Vのモータージェネレーターを搭載するシステムの構想を発表しました。その後、2013年までに標準規格の策定を終え、システム化の対象となる部品メーカーをも巻き込み、ドイツ自動車産業が一丸となって導入を目指してきました。2016年後半には市販モデルの投入が各社から計画されています。

■ 燃費向上と低コストの両立!?

48Vハイブリッドシステムは、二次電池を動力源としたモーターアシストの機能を持ちません。12Vのオルタネーターに代わって48Vのモータージェネレータを搭載し、エネ

ハイブリッド技術の比較 (図1)

ハイブリッド技術の燃費効果・コスト(ドイツメーカー)



48Vハイブリッドシステムは、比較的 low コストで大きな燃費改善効果が見込める



ルギー回生能力の向上を図ると共に、エンジン停止時にはエアコンコンプレッサー等の補器をモーター駆動し、エネルギー効率を高めるのです。48V化は、この他、電動パワステ、電動ヒーター、クーリングファン、燃料ポンプ、バキュームポンプ、ウォーターポンプなど、大出力を必要とするものが対象です。一方、インフォティメントシステムやエンジンマネジメントシステムなどは従来からの12Vシステムを流用します。つまり、電力需要の大きな部品を駆動する48Vシステムと従来の12Vシステムとを並行して使う二系統のシステムです。

このシステムは追加部品が少なく搭載面でも優れているため、どんな車種にも低コストで搭載可能です。また、フルハイブリッドとは異なり、駆動用の大型モータが不要なため、追加コストは1,000～1,500ユーロ程度です。ドイツ勢は、強みである高効率のダウンサイズエンジンをベースに、48Vハイブリッドでエネルギー回生機能の向上、大型車では電動ターボのアシストも加えることで、10～20%の燃費向上効果を狙っているのです。一方、日本勢が強みを持つフルハイブリッドは、

20～30%の燃費向上効果に対して4,000～5,000ユーロのコストが掛かる費用対効果が低いと位置づけられています。これは日本勢が実現したコストレベル25万円とは大きな開きがありますが、ドイツ勢が48Vハイブリッドを有望視する理由はここにあるかもしれません。

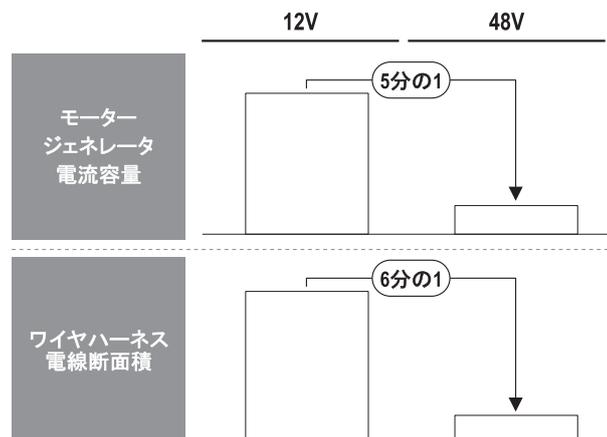
■ なぜ48Vなのか？

走行中の減速エネルギーの回収は一定程度までは電圧が高いほど良いと考えられます。但し、国連欧州経済委員会が定めた電動車両の安全規格では、60Vを超えると人体に危険とされ、安全対策のためにケーブルやコネクタに厚い絶縁膜を設けることが求められ、コスト増の要因が生まれます。また、半導体部品では、耐圧が100Vを超えるとコストが一気に上がります。そこで、減速エネルギーの回収が十分に賄え、追加コストの少ない48Vが選択されたのです。通常、減速エネルギー回収には10kW程度のモータージェネレータが必要ですが、現行の12Vシステムで10kWの出力対応をすると、電流容量が1000A程度にまで上昇します。すると、電線が太くなり、

48Vによる小型化 (図2)



10kW出力対応における48Vシステムの小型化効果



モータージェネレータのサイズも増大します。一方で、48Vシステムで対応すると、電流容量を200A程度と小さくすることができるので、12Vシステムに比べてワイヤハーネスを構成する電線の断面積を1/6程度に、モータージェネレータの体積、重量を数分の一に抑制することができるのです。

■ 日本勢の動向

日系の完成車メーカーは、48Vハイブリッドに対しては消極的で、どのメーカーも明確な意思を示していません。高出力モーターを活用したフルハイブリッド技術を成熟させ、低コスト化も進めてきたため、敢えて類似の新しい技術への開発投資を抑制しているとも考えられます。そうした中でも、48Vシステムに相対的に前向きなのは三菱自動車、マツダ、スズキです。ただ、各メーカーは独自技術の確立を志向しており、標準規格で足並みを揃えるドイツ勢とは対照的なアプローチとなっています。

三菱自動車は、48Vハイブリッドを採用したコンセプトカー「ミツビシコンセプトAR」を2013年11月に発表しました。48Vのリチウムイオン電池、10kwのベルト駆動式モータージェネレータ、DC/DCコンバータで構成され、ドイツ勢のシステムと類似したものです。マツダは、システム構成を公表していませんが、現在の減速エネルギー回生システム「i-ELOOP」のキャパシタを現在の25Vから48Vに変更することが想定されます。現行のオルターネータが電圧可変型であり、低コストでの変更が可能です。そして、スズキは、「48Vシステムは、エネチャージ技術の延長線上にあると考えている」というコメントからも、コスト面での課題さえ解決すれば48Vを活用したいと考えているようです。

■ 軽自動車でのチャレンジ!?

さて、48Vハイブリッドと日本独自の軽自動車との親和性はどうでしょうか？ 48Vシステムは、12Vのアイドルリングストップシステムを超える燃費向上効果の獲得には貢献できるはずですが。特に、従来のマイルドハイブリッドとは異なりモーターを積まず、さらに前述の通り、12Vと比べてユニットの小型化、軽量化が見込まれるため、搭載制約が厳しい軽自動車にはピッタリの技術です。ただ、残念ながら現時点での大きなハードルはコストです。原価は10万円を大きく下回るコストを実現する必要があるのです。

コスト削減の王道はスケールメリットですが、軽自動車は標準化、モジュール化が最も進んでおり、日系メーカー同士で連携を進めさえすれば、200万台近くのスケールを生み出すことができます。さらに、近年では、拡幅版をアジアで販売するという計画を打ち出しているメーカーも複数現れていることから、更なるスケールメリットも十分に期待できるはずですが。実際、アジア各国ではエコカー政策が先進国レベルの燃費性能へと近づいていく中、近い将来に48Vシステムが選択肢に入る可能性が十分あると考えています。加えて、日系の電装サプライヤーが持つ、欧州勢の半分以下というフルハイブリッドで実証した高いコスト低減能力を結集すればハードルを打ち破ることも可能ではないでしょうか？

もちろん、48Vハイブリッドの採用はこんな簡単な議論で結論がでるとは思いません。ただ、ドイツ勢の連携が企むグローバルスタンダード化は脅威です。今こそ、日系の完成車メーカー、サプライヤーが一丸となって、そして日本国政府がアジア各国の政策を引き寄せ、軽自動車発の新たなハイブリッドに取り組んでもらいたいと考えています。

工業会業務レポート

委員会活動

業務部

●業務報告 (8/16～10/15)

- 8月19日 旧型補給部品検討会 ・旧型補給部品の部品メーカーの仕入れ先への対応状況アンケート結果について検討を行った。 ・旧型補給部品に関する取り組み活動取りまとめについて検討を行った。(自動車部品会館)
- 8月22日 税制部会 ・部品工業会の平成26年度税制改正要望の結果と27年度税制改正要望の方向性について検討を行った。(自動車部品会館)
- 8月22日 経営調査部会 ・平成26年度第1四半期の自動車部品工業の経営動向(案)について検討を行った。(自動車部品会館)
- 9月9日 労務部会 ・自動車部品産業に関する労務課題への対応について検討を行った。(自動車部品会館)
- 9月10日 総務委員会 ・平成26年度第1四半期の自動車部品工業の経営動向の取りまとめ結果について検討を行った。 ・中小企業EDI化の取組み状況について検討を行った。(自動車部品会館)
- 9月11日 経営調査部会 講演会 ・国内外の自動車市場に関する講演会を開催した。 テーマ：国内外の自動車市場の展望と日系自動車メーカーの戦略 講師：大和証券(株)企業調査部 シニアアナリスト 箱守英治(くるまプラザ)
- 9月12日 補修部品用品委員会 見学会 ・「多品種微量」生産など新しいものづくりへの取組みや、徹底的な「顧客志向」による商品開発等、企業の考え方についてお話を伺いし、関連する生産ラインを見学した。(鍋屋バイテック 関工園)
- 9月24日 CSR推進研究会 ・CSRのあり方についての講演会を開催した後、意見交換を行った。 講師：株式会社伊藤園 常務執行役員 笹谷秀光様 テーマ：企業価値を高めるCSRのあり方を考える(自動車部品会館)
- 10月9日 旧型補給部品検討会 ・旧型補給部品の部品メーカーの仕入れ先への対応状況アンケート結果について、追加フォロー分も含めて検討を行った。(自動車部品会館)
- 10月15日 災害時の初動対策訓練セミナー ・災害時の初動対策訓練に関するセミナーを開催した。 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 山口修様 上席コンサルタント 田代邦幸様(自動車部品会館)

●行事予定 (11/16～1/15)

- 11月17日 自動車産業適正取引ガイドライン、下請法セミナー ・自動車産業における更なる取引の適正化に向けてセミナーを開催する。 ①自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省自動車課、各地方経済産業局 ご担当者様 ②下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士 岡田英夫様(浜松市勤労会館)
- 11月18日 自動車産業適正取引ガイドライン、下請法セミナー ・自動車産業における更なる取引の適正化に向けてセミナーを開催する。 ①自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省自動車課、各地方経済産業局 ご担当者様 ②下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士 岡田英夫様(名古屋国際センター)

- 11月20日 自動車産業適正取引ガイドライン、下請法セミナー ・自動車産業における更なる取引の適正化に向けてセミナーを開催する。 ①自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省自動車課、各地方経済産業局 ご担当者様 ②下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士 岡田英夫様(フォレスト仙台)
- 11月20日 自動車総連とのトップ懇談会 ・自動車部品業界の動向についての意見交換を行う。(牡丹)
- 11月25日 経営調査部会 ・平成26年度中間期の自動車部品工業の経営動向(案)のとりまとめを行う。(自動車部品会館)
- 11月26日 災害時の初動対策訓練セミナー ・災害時の初動対策訓練に関するセミナーを開催する。 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 山口修様 上席コンサルタント 田代邦幸様(新大阪MTビル)
- 11月28日 自動車産業適正取引ガイドライン、下請法セミナー ・自動車産業における更なる取引の適正化に向けてセミナーを開催する。 ①自動車産業適正取引ガイドラインについて 講師：経済産業省自動車課、各地方経済産業局 ご担当者様 ②下請法の留意点について 講師：はなぶさ法律事務所 弁護士 岡田英夫様(太田市学習文化センター)
- 12月3日 災害時の初動対策訓練セミナー ・災害時の初動対策訓練に関するセミナーを開催する。 講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 山口修様 上席コンサルタント 田代邦幸様(ウイंकあいち 愛知県産業労働センター)
- 12月10日 総務委員会 ・平成26年度中間期の自動車部品工業の経営動向(案)のとりまとめ結果について検討を行う。 ・各部会の活動状況について報告を行う。(経団連会館)

総務部

●業務報告 (8/16～10/15)

- 9月17日 会報誌企画会議 11月以降の特集記事の検討(部工会)

●行事予定 (11/16～1/15)

- 12月10日 政策委員会・総務委員会と自工会調達委員会との懇談会 両団体における共通テーマに関する意見交換会(経団連会館)
- 12月11日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 各委員長報告他(ウェスティンホテル大阪)

関東支部

●業務報告 (8/16～10/15)

- 8月25日 講演会「これからの日印関係」 タタ コミュニケーションズ ジャパン(株) 代表取締役社長、インド経団連 日本代表 徳原綱男氏 「インドの経済状況とビジネス環境」 日本貿易振興機構(ジェトロ) ニューデリー事務所 駐在員 西澤知史氏(経団連会館)
- 9月1日 インド自動車産業視察研修参加者説明会(部品会館)
- 9月11日 第2回関東支部企画部会(三輪精機(株))
- 9月17日 講演会 中小企業基盤整備機構による中小企業

支援事業説明会（部品会館）
10月4日～11日
インド自動車産業視察研修

●行事予定（11/16～1/15）

11月25日 関東支部拡大運営委員会・懇親会（八芳園）
12月16日 第3回関東支部企画部会（㈱ファルテック）

中部支部

●業務報告（8/16～10/15）

8月18～21日
研修会派遣（中小企業部会） テーマ：「管理者のための問題解決」（中小企業大学校瀬戸校）
8月21日 講演会（中小企業部会主催）「ものづくり企業の進むべき道」～明日を創るイノベーション創出戦略～ 静岡大学工学部 特任教授 中村保氏（名古屋栄ビル）
8月21～22日
ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
8月21～22日
ISO/TS16949:2009 AIAG, コアツール実践2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
8月29日 講演会（環境部会主催）「HONDAの環境取り組み」 本田技研工業㈱ 環境安全企画室 室長 篠原道雄氏（愛知県産業労働センター）
9月8～11日
研修会派遣（中小企業部会） テーマ：「人材育成計画の立て方・進め方」（中小企業大学校瀬戸校）
9月12日 結団式 東南アジア自動車産業視察参加者結団式（名古屋マリオットアソシア）
9月18～19日
ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
9月18～19日
ISO14001:2004 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
9月25日 優良施設見学会（環境部会主催） 大和ハウス工業㈱ 総合技術研究所・奈良工場
9月27日～10月5日
東南アジア自動車産業視察 訪問国：ミャンマー・ベトナム・タイ
10月6～7日
研修会派遣（中小企業部会） テーマ：「5Sと目で見る管理」前期（中小企業大学校瀬戸校）
10月9～10日
ISO9001:2008 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
10月10日 優良企業工場見学会（中小企業部会主催） YKK ㈱ 黒部事業所

●行事予定（11/16～1/15）

11月18～21日
研修会派遣（中小企業部会） テーマ：「目標必達のためのマネジメント強化講座」（中小企業大学校瀬戸校）
11月26日 環境保全に関する講演会・事例発表会 環境保全に関する講演会 筑波大学・トヨタ自動車 事例発表会（13事例）（名古屋市工業研究所）
12月4日 第2回 運営委員会 議案：支部事業中間報告および今後の計画について
12月18日 報告会 東南アジア自動車産業報告会

関西支部

●業務報告（8/16～10/15）

9月12日 第2回正副支部長会 第1回運営委員会 情報交換会 講演会 懇親会 「メキシコ投資環境とJBICの海外事業支援～自動車産業を中心に～」 ㈱国際協力銀行 西日本営業ユニット長 福住一徳氏 「新型デミオ搭載の1.5L新スカイアクティブ・ディーゼル・エンジン」 マツダ㈱ パワートレイン開発本部 副本部長 兼 パワートレイン企画部 部長 仁井内進氏（シェラトンホテル広島）
9月11日～12日
品質分科会 ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー（エル・おおさか）
10月8日 技術分科会 第2回勉強会・見学会（ローム㈱ 本社）
10月10日 品質分科会 第1回勉強会・見学会 「航空機産業の品質管理」 三菱重工業㈱ 交通・輸送ドメイン 品質安全総括部長 近藤栄也氏（三菱重工業㈱ 交通・輸送ドメイン 小牧南工場）
●行事予定（11/16～1/15）
12月5日 品質分科会 第2回委員会・工場見学会・忘年会（ダイヤモンド電機㈱ 鳥取工場）
12月11日 第3回正副支部長会 第2回運営委員会（ウエスティンホテル大阪）
12月11日～12日
品質分科会 ISO/TS16949:2009 内部監査員2日間セミナー（エル・おおさか）
1月8日 平成27年度十団体共催新年賀詞交歓会（ホテル阪神）

技術関係委員会等の開催状況 (8/16~10/15)

1. 総合技術委員会

日時	会議名	開催場所	概要
9月26日	平成26年度 第2回総合技術委員会	自動車部品会館	1) 環境問題への対応について 2) 電子情報化への対応について 3) 基準・認証制度への対応について 4) その他各委員の情報交換

2. 基準認証部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
8月28日	基準認証部会	自動車部品会館	1) インドWG活動状況 2) 中国WG活動状況 3) ASEAN-WG活動状況 4) JASIC情報
9月22日	基準認証部会 ASEAN-WG	自動車部品会館	1) AAF-AC3会議報告と今後の対応について 2) ASEANミッション計画について
9月26日	基準認証部会インドWG	自動車部品会館	1) インドミッション計画と準備大日程について 2) インド関係の課題整理

3. IT対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
8月26日	構造改革WG	自動車部品会館	1) 困り事アンケートの集計について 2) CADベンダーアンケートの集計について
8月29日	DE促進部会	デンソー5号館 (刈谷)	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
9月9日	EDI部会	自動車部品会館	1) 平成26年度の活動中間報告について
9月16日	IT対応委員会	自動車部品会館	1) 平成26年度の幹事会の中間報告について 2) 平成26年度のDE促進部会の中間報告について 3) 平成26年度のEDI部会の中間報告について
9月22日	DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動

4. 環境対応委員会関係

日時	会議名	開催場所	概要
8月21日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) 9/24、9/30の説明会に向けての諸々の確認と検討
9月2日	環境保全規制対応検討 WG	刈谷市産業振興 センター	1) 「環境法規制対応ガイダンス」の充実について 2) 経団連「2016年度以降の環境自主行動計画のあり方に関する 意見提出のお願い」への対応について 3) 各社のグローバルでの不具合・対応策の情報報告
9月3日	環境対応委員会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会及び理事会での報告 2) 各部会・分科会の次年度活動計画の提案 3) 事務局情報
9月4日	製品環境部会幹事会	トヨタ紡織 (東京支社)	1) CATARC主催国際フォーラム・結果報告 2) サプライヤアライアンス・結果報告 3) 銅合金メーカーのヒヤリング結果と今後の対応 4) J-IMDSコミッティ・結果報告と今後の対応

日時	会議名	開催場所	概要
9月5日	製品環境部会	自動車部品会館	1) J-IMDSコミッティ結果報告と今後の対応 2) CATARC国際フォーラム結果報告 3) SUAL&各OEM中国物質報告対応 4) 銅合金メーカーのヒヤリング結果と今後の対応 5) 総合技術委員会報告内容について
9月9日	温暖化防止推進分科会	自動車部品会館	1) CO ₂ 削減シナリオTF報告 2) 事例・情報展開TF報告
9月24日	ラベル・SDSおよび環境規制対応ガイダンス説明会(東京)	日比谷 図書文化館	1) 「ラベル・SDS表示対応法規」の講演 2) 「ラベル・SDS対応ガイダンス」の説明 3) 「生産に関わる環境法規制対応ガイダンス」の説明
9月25日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) サプライヤアライアンスの結果報告 2) 自工会・製品化学物質管理部会・報告(9/12開催) 3) 自工会・個別物質分科会・報告(9/18開催)
9月26日	低炭素プロジェクト	自動車部品会館	1) 経団連からの要請事項の確認過去の活動経過 2) 検討課題の整理 3) 今後の進め方
9月30日	ラベル・SDSおよび環境規制対応ガイダンス説明会(名古屋)	名古屋市 工業研究所	9月24日(東京会場)と同じ
10月2日	化学物質規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) 新任幹事のご紹介 2) 規制物質の精査活動 3) 自工会情報 4) 中国出張報告 5) 欧州出張報告
10月10日	LCA分科会幹事会	パークサイド ビル小倉	1) 各WGの活動について 2) OEMの動向について

5. 品目別部会関係

日時	会議名	開催場所	概要
8月19日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO, JIS, JASO対応について 2) 2015年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会、JASIC関連について
8月21日	レストレイントPRWG	自動車部品会館	1) 静岡県交通安全フェアへの出展について 2) 未認定品チャイルドシートへの対応について 3) チャイルドシート指導員養成研修会について
	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) CRS新法規への今後の対応について ・第1回分科会課題事項のとりまとめ
	濾器技術部会	自動車部品会館	1) 部会長交代について 2) 平成25年度濾器技術部会収支報告について 3) 平成26年度濾器技術部会活動計画案について 4) ISO国際会議対応について (ISO/TC22/SC7/WG1, WG3, SC5/WG11及びISO/TC70/SC7) 5) JIS定期見直しについて 6) 自技会関連について
8月29日	クッション性分科会	自動車部品会館	1) ㈱クレークト・インターナショナル計測器プレゼン及びデモ 2) 今後の活動について
9月1日	オイルシール技術部会	自動車部品会館	1) JIS-ISO整合化作業について 2) ISO審議状況等
9月11日	シートベルト分科会幹事会	自動車部品会館	1) CCAP対応 2) CCC実施規則内容確認
	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) JASO DXXX高圧電線規格1次案審議について 3) 第65回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
9月15日	エアバッグ分科会 CE-WG	安保ホール (名古屋)	1) ウクライナ、韓国他火薬・エアバッグ法規情報 2) ISOでOOP会出席報告 (JSAE増田) 3) BAM対応事前確認 4) BAMとの打合せ
9月19日	シート部会	自動車部品会館	1) 第18回シート技術研究発表会開催計画 2) 中国CCC認証対応について
	ブレーキホース部会	自動車部品会館	1) CNCA実施規則ブレーキホース (日本語訳) の確認 2) 中国CCC工場監査日程 3) 韓国認証 4) インド認証
9月24日	濾器技術部会	自動車部品会館	1) ISO国際会議対応について (ISO/TC22/SC7/WG1, WG3, SC5/WG11及びISO/TC70/SC7) 2) JIS定期見直しについて 3) 自技会関連について
9月25日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO, JIS, JASO対応について 2) 2015年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自技会、JASIC関連について
9月29日	ラジエータ分科会	自動車部品会館	1) 7/28開催 自技会「ラジエータ分科会」の宿題項目に沿って各社の意見交換

●行事予定 (11/16～1/15)

月 日	会合名称など	概 要	場 所
11月18日	EDI部会		自動車部品会館
11月21日	JAMAシート分科会幹事会		自動車部品会館
//	クッション性分科会	横浜国立大学研究室 見学	横浜国立大学
//	DE促進部会	各WG報告について	デンソー5号館 (刈谷)
11月27日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
11月27日～ 11月28日	オイルシール技術部会	岐阜生活技術研究所 見学	高山
11月28日	製品環境部会		自動車部品会館
12月4日	電線部会	JASO DXXX高圧電線について	自動車部品会館
12月5日	シート部会	来年度研究発表会企画の検討	自動車部品会館
//	ランプ部会	GTB会議報告	自動車部品会館
//	構造改革WG		自動車部品会館
12月10日	化学物質規制対応分科会幹事会		自動車部品会館
12月12日	JAMAシート分科会幹事会		自動車部品会館
//	JAMAシート分科会		自動車部品会館
12月12日～ 12月13日	レストレイント部会秋季合同会議	工場見学	未定
12月17日	基準認証部会	各WG活動報告	自動車部品会館
12月18日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
12月19日	製品環境部会		自動車部品会館

中部支部 環境部会主催 「TOTO (株)施設見学会 視察報告」

一般社団法人 日本自動車部品工業会

中部支部 環境部会委員 近藤 康晴 (記)

(トヨタ紡織(株) 環境部 PE 環境室 室長)

1. 訪問日時

2014年7月23日 (水) 13時00分～15時00分

2. 訪問先

TOTO株式会社 滋賀工場 新西棟

3. 面談者

TOTO株式会社

衛陶生産本部 衛陶技術部

田原グループリーダー 石橋様

中部支社 市場開発部 課長 富士様

4. 参加者

中部支部環境部会 会員25名 (18社)

5. 訪問のねらい

TOTO(株) 滋賀工場 新西棟は、衛生陶器の製造工場として老朽化した工場の建て替えを機会に最先端の省エネ技術を数多く導入し、大幅な省エネとCO₂排出量削減を実現した。今回の視察は、窯業分野製造工場のモデル事業として高く評価され、平成25年度省エネ大賞の経済産業大臣賞を受賞した工場を見学させていただき、部工会会員企業の環境保全活動に役立てていく。

6. 施設の概要

TOTO(株) 滋賀工場は、日本の消費の真ん中に位置し、良土が取れる土地柄であり、新西棟は、2012年2月より稼働を開始したトイレの腰掛便器を生産する23年ぶりの国内新工場である。

既存工場の建て替えに際し、環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE*」のものづくり分野におけるCO₂排出削減目標 (2017年度に1990年度比で45%削減) に貢献するグリーンファクトリーのモデル工場として建設された。建替前と比較し、消費電力量で18% (995MWh/年)、都市ガス使用量で49% (212万7千m³/年) の削減を達成し、結果CO₂排出量43%の削減に成功した。今後、本モデル工場での取り組みを国内外の工場へ展開

予定である。

※環境ビジョン「TOTO GREEN CHALLENGE」

創立100周年を迎える2017年に向け、「商品・サービス」「ものづくり」「社会貢献」の3つの軸とそれらを支える「ひとづくり」で、新しい環境貢献目標にチャレンジしている。

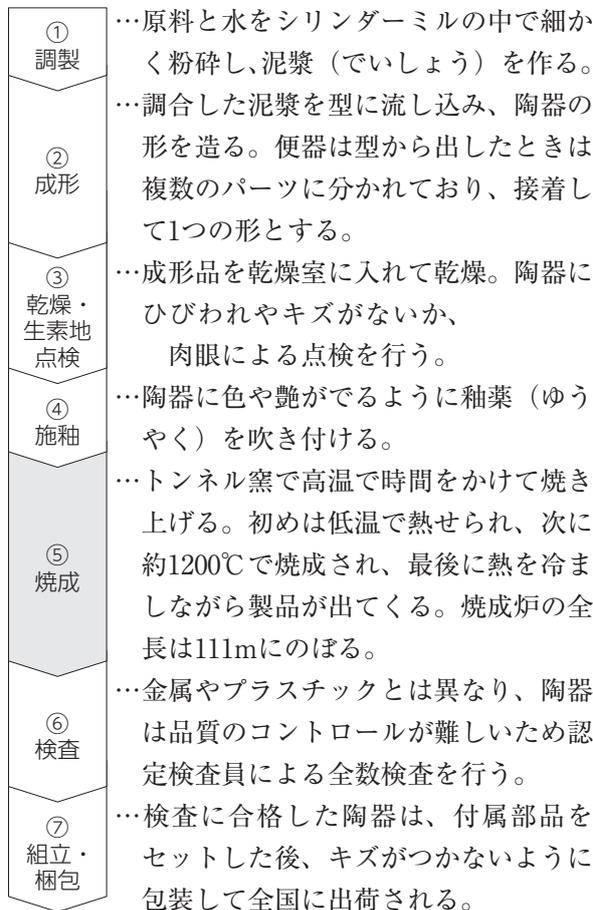
7. 視察のスケジュール

- (1) 滋賀工場 新西棟のものづくりの流れ、省エネルギー活動のプレゼンテーション
- (2) 省エネルギー設備、システムを導入した新西棟の見学

8. 視察報告

(1) ものづくりの流れ

原料から製品まで滋賀工場にて一貫生産を行い、地産地消体制を確立している。



今回は、生産プロセスの中でもCO₂排出量の大



大きな部分を占める焼成工程の省エネ取り組み、生産性向上とエネルギー使用量削減に成功したバーコード管理システム、最新の省エネ・環境配慮設備の導入に関して、以降にレポートしていく。

(2) 施設見学

1) 高効率焼成窯

衛生陶器の製造工程において、最もエネルギーを消費する焼成窯に、高効率な「排熱回収自己再生型のファイバー式焼成窯」を導入した。製品冷却時の排熱を回収・再加熱後、燃焼エアとして再利用し、更に余熱を乾燥室でも再利用することで、従来型のレンガ式焼成窯と比較して、焼成重量原単位（製品の単位重量あたりのエネルギー使用量）を70%以上向上させた。

2) 個体識別バーコード管理システム

1,200℃まで対応可能なバーコードを用いた「個体識別バーコード管理システム」を生産ラインに導入した。全工程でリアルタイムに製品の個体識別情報が明確になり、在庫量の削減や棚卸し負荷の軽減など生産性が向上。475項目もの製造履歴が取得できるため、ヒューマンエラー削減や歩留まりも更に向上し、大幅なエネルギー使用量削減を実現した。

3) 建屋・付帯設備

良品確保のため、温湿度管理が重要な成形室に、ビル用エアコンを改善した省エネ型 新空調設備を導入した。

更に成形室を建屋の真ん中に配置したレイアウト、高断熱屋根、高断熱外壁により設備能力を最大限に発揮し、大幅な使用電力削減を実現している。

また、エネルギー管理システムを導入し、エア・水・ガス・電気の見える化により、部門単位の小集団化 改善活動につなげている。



環境配慮設備においては、屋上に50kWの太陽光パネルの設置や窓の全てに省エネLow-eガラスを採用、また外壁には自然の力で汚れを分解する光触媒塗料「ハイドロテクトカラーコート」を塗装するなど、様々な環境貢献技術が取り入れられている。

9. 所感

シンボリックファクトリーを目指して、足掛け5年のプロジェクトで省エネ大賞の経済産業大臣賞を受賞された関係者の方々の苦勞が説明の場や現場見学で伝わってきた。特に、111mの焼成炉は自動車部品の製造工程では見る事が出来ない迫力があり、省エネの面でも熱効率・排熱回収を極限まで追求されたオンリーワンの生産工程であると思う。普段は出来上がった商品を見るか使うことしかできないが、今回工場見学を通して商品ができるまでの過程から、高い生産性と商品のすばらしさを身近に感じる事ができた。滋賀工場の省エネを含めた先進的な取り組みがグローバルに展開される日も近いのではと感じた。

最後に、お忙しい中ご対応戴き、親切かつ多くの質問に答えていただいた田原様をはじめTOTOの皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。



JAPIAメンバーの力を結集し 問題解決とメリット共有、 そして海外連携を積極化

Q 部会の活動内容を簡単に教えてください。

A 1社1社の企業単位では解決が難しい、基準認証に関わる内容に関してJAPIAメンバーの共通課題を掘り起し、課題解決の為の方策および具体的な取組み計画を立案しています。そこでJAPIAメンバーの力を結集すると同時に団体組織としての発言力を活用して各国当局や業界への働き掛けを推進する事により、自動車部品業界としての問題解決とメリット促進を図っています。

Q 部会の具体的な活動と注力していることは？

A ・タイムリーな情報／課題の共有化とアクション展開を狙い部会を定期的で開催しています。(2ヵ月毎)

- ・インド、中国、ASEANの3活動WGを継続設定。中南米、韓国、台湾、豪州は部会内にて対応しています。
- ・CLEPA（欧州部工会）／MEMA（米

部工会）連携は新興国対応で協力強化を図り、また新興国部工会とのパイプもさらなる発展を図っています。

- ・JAMA（自工会）、JASIC（自動車基準認証国際化研究センター）などの他団体と協業し、効率的な情報把握とアクションを図っています。

Q その他の活動や課題について教えてください。

A 特に新興国はモータリゼーション発展にそって、自動車基準認証整備や安価粗悪品の排除制度が進んでおり、



CCAP（中国の認証機関）との会議



総合技術委員会 基準認証部会
部会長 兵藤 公則
(株式会社小糸製作所)

他団体（JAMA、JASIC、CLEPA等）と協業しながら、各国当局&業界のパイプを通して具体的な展開、活動の必要があります。

（インド）

- ・新自動車法規AIS規格・部品認証制度 AIS-037制定への法規渉外活動の強化が必要です。法規情報入手が困難でインド側とのパイプ構築の強化が当面の課題です。

（中国）

- ・CCC認証10年節目で実施規則の大幅な

改訂の動きがあり、実施要領・対象部品拡大など、影響が大きいと思われますので注視しています。

（アセアン）

- ・2015年ASEAN経済共同体（AEC：ASEAN Economic Community）を開始予定。自動車部品分野ではASEAN-MRA認証制度を構想中。日本は国交省／JASIC中心に国連58協定加盟、IWVTAによる国際基準認証のASEANへの導入に向け渉外活動の必要性が高いと思われます。



JIAMM（インドネシア部工会）との会議

オンリーワンの技術開発と コア技術の先進化により他社にない 一貫生産体制を敷く

家電分野から自動車分野への再参入。
省エネルギーや環境関連技術と
国内製造にこだわった同社が
自動車にこだわった理由。



田山英明社長

会社プロフィール



本 社 〒300-4351 茨城県つくば市上大島 1904
TEL.029-866-0811(代) FAX.029-866-1100

資 本 金 1 億円

従 業 員 175 名

事業所拠点 本社 海外 (中国・福建省)

創 業 1946 年

部 工 会 加 入 2014 年

代 表 者 代表取締役会長 中村謙治 / 代表取締役社長 田山英明

もともとは自動車からの 出発だったが…

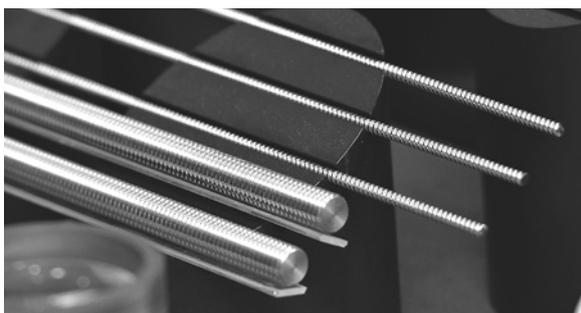
1946年に同社の前身である合資会社 田中製作所が東京・葛飾で創業。車両用のベアリングを作り始めたということから自動車分野への参入も戦後すぐからということになる。ただその後、自動車用ベアリングなどは大手が台頭し、競争が激化してきたことから家電分野に大きく舵を切った。



69年には現本社の茨城県つくば市に筑波工場をつくり、今もって国内唯一の製造拠点として整備を進めてきた。その筑波工場から作り出された製品は家電用精密軸。モーターの軸などに使われるものだが、ビデオデッキ全盛時代にはほとんどのビデオメーカーに納品。ビデオデッキのドラム軸においては同社のシェア90%、月産600万本という独占時代もあったという。

自動車へのシフトは 国内生産へのこだわり

ビデオデッキのドラム軸の独占時代から徐々に家電メーカーの海外生産が増加して、よりローコスト化されていく。それに応じて同社も、94年に中国・福建省に製造子会社を設立し、筑波と同じような機能を持った工場を作り上げる。それにより海外対応もこなしてきたのだが、ローコストを追いかけていくばかりでなく、同社自慢の技術力



により市場に再度挑戦する意味で、自動車分野への再参入を決定。ハイブリッド(HV)やEVなどモーターを搭載する車両が増える中、モーター軸では超精密加工、生産を誇る同社の技術転用の成功事例ともいえる。

他社にない技術と 無いもの作り出す力

自動車分野への再参入を図った同社だが、高精度、高品質、高信頼性を三拍子そろったサプライヤーとして大手部品メーカーからの表彰も受けている。同社の製品としては精密シャフト、リードスクリュー、精密プレス部品などだ。特に自動車用途としてはモーターやパワートレインの金属部品が今も主流という。しかし同社のすごいところはこの製品をほぼ内製化していることだ。部分的に熱処理や表面処理など製造工程の一部を外注化して効率やコスト、繁閑差を吸収しているメーカーは多いのだが、同社はそれが無く一貫して筑波工場でのワンストップサービスにこだわっている。機密保持などの観点からもこれは納入先からも高く評価されている。またそればかりでなく納入先との信頼関係から試作品の取り扱いも多い。一つ単位から量産までこなすことも可能というメーカーもそう多くはないだろう。さらには試作など材質や設計の変更も幅広く対応していることにおいての一番の問題点は評価、測定方法などが確立されていないことも多いのだが、そうした評価、測定についても無いものを作り出す対応も積極的に行っているという。

社内一貫生産体制へのこだわり

同社のものづくり体制は技術特化と一貫生産が大きな特徴だ。研削、旋削、切削、熱処理、塑性、

研磨、表面処理などにおいて各工程において多種多様な設備を有し、その組み合わせで顧客からの要望に最大限こたえている。また材料、材質への対応も多様で、評価・測定技術も高いことから納入先からも重宝されているという。同社全体の売上の約6割が自動車関連、さらに2割を占めるのが家電分野だがカーナビ、カーオーディオ系なども含まれるということから、まさしく自動車になくてはならないメーカーだ。また中国の工場にもほぼ同じ体制を敷いており、日中で相互補完的な生産体制を構築し、供給体制のバックアップとして非常時でも対応できるという。

技術開発と 人材開発における共通点

同社の従業員は約170名。そのうち技術関連は30名程度。技術に特化した会社というだけあってエンジニアの数は多い。さらにエンジニア経験者が営業部隊でも約半数を占めているといい、技術的にもかなり細かな商談や相談がスピーディーに、スムーズに行える。技術要素を数多く持つことを会社として大きなテーマとしており、その要素の組み合わせで顧客のニーズに対応していく姿勢の表れだ。また人材も一人で多能工的な仕事ができること、マルチタレント化を推奨し、教育活動や人事評価制度も近年変更した。マイスター制度などのものづくり体制と技術伝承、教育の制度も新たな取り組みが取り入れられている。社員も会社も要素を多く持ち、多様化する社会に対応していく方向性を明確に打ち出している。他社との差別化は技術力、それもオリジナルな技術にこだわり、マルチ社員の組み合わせで同社の強固な基盤と柔軟な対応力となり、さらには会社の力として顧客へ供給されていく。筑波での一貫生産が集中であり、精密金属部品などに特化することは選択である。人材と会社、そして技術に裏付けされた製品が一体となって同社の一番と強みとして今後も発揮され続けるだろう。



行政・団体

8月.....

■経産省、概算要求 省エネ対策など厚く(27日)

経済産業省は、2015年度の予算要求額を前年度比1500億円増の約1兆3600億円とする方針だ。企業の省エネ対策や中小企業対策を手厚くするほか、地域経済の再生にも予算を振り向ける。

■特許庁、特許審査品向上へマニュアル発表(28日)

特許庁は、特許審査の品質に関するマニュアルを発表した。同庁は特許審査スピードの短縮に加え、審査の質を高めるため4月に「品質ポリシー」を公表済み。

■経産省、自動運転など6分野選定 産官学で共同研究(29日)

経済産業省は、自動車メーカーや大学、研究機関による新たな共同研究体制を作る。

■国交省が税制改正で車体課税の見直しなど要望(29日)

国土交通省は、28日まとめた2015年度税制改正要望で車体課税の見直しや先進安全自動車(ASV)に関する特例措置の延長・拡充などを求めた。

■国交省、スキャンツール補助金再公募 9日にスタート(29日)

国土交通省は、スキャンツール(外部故障診断機)補助金の再公募を9月9日から始める。10月末まで受け付けが、期間中に申請総額が予算を超えた場合は受け付けを打ち切る。

9月.....

■経産省、中堅製造業支援を強化(17日)

経済産業省は、地方経済を支える中堅製造業への支援を来年度から強化する。

■ベンチャー育成強化へ 経産省、協議会立ち上げ(22日)

経済産業省は、ベンチャー企業の創出や育成に力を入れる。ベンチャーや金融機関、大学などを集めて「ベンチャー創造協議会」を近く立ち上げ、必要な施策を議論するほか、税制や投資支援策なども検討していく。

■経産省と自動車業界、蓄電池性能で統一基準 中古車の円滑な流通へ(26日)

経済産業省と自動車業界は、電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車(PHV)などに用いられる駆動用蓄電池の性能評価基準作りを乗り出す。

■総務省検討会、軽にも環境性能課税、業界、さらなる負担と反対(27日)

自動車税に上乘せられるはずだった「環境性能課税(環境性能制)」が軽自動車税にも適用される可能性が浮上してきた。

10月.....

■経産省と自動車業界、コンパクトカー減税導入目指す(3日)

経済産業省と自動車業界は「コンパクトカー減税」の実現を目指す。

■経産省、原材料やエネルギーコスト上昇の適正な価格転嫁要請(4日)

経済産業省は、原材料やエネルギーコスト増加分の適正な価格転嫁を主な経済団体に要請した。

■経産省、海外産水素を安定供給へ実証事業(17日)

経済産業省は、海外で安く製造できる水素を国内に効率よく持ち込んで利用するサプライチェーン(供給網)の実証事業に乗り出す。

■総務省、小型車でも理美容車 古い規制の見直し勧告(18日)

総務省は、時代遅れで企業に不必要な負担を強いている規制に関する調査結果をまとめ、こうした規制を所管する省庁に勧告した。

■国交省と独立行政法人自動車事故対策機構、自動車アセス初の「予防安全」評価公表(24日)

国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構は、2014年度上期に実施した「予防安全性能アセスメント」の評価結果を初めて公表した。

国内

8月.....

■ピストンリング3社今期見通し、海外好調で後半に明るさ(26日)

ピストンリング大手3社が慎重な見通しを立てた2014年度は、第2四半期中盤の8月下旬まで明るい様相を見せている。

■日産 HP 不正アクセスで改ざん被害(27日)

日産自動車は、同社が運営するホームページ内の「下取り参考価格シミュレーション」サイトが第三者による不正アクセスによって、プログラムの一部が改ざんされていた。

■サンゴバン、鉛フリーはんだで新工法(27日)

仏サンゴバン(本社=クールブヴォア)は、鉛を使わない自動車ガラス用のはんだ技術(鉛フリーはんだ)の新工法を開発し、日系自動車メーカーへの提案を開始した。

■NTN、高性能磁性コアを開発(28日)

NTNは、ベアリングなどの自動車部品の強度を向上するための熱処理を施す際に、鉄粉の表面に熱硬化性樹脂をコーティングし、圧縮成形することで磁性特性と強度が得られる「高性能磁性コア」を開発した。

■図研エルミック、車載イーサネット用ソフトを共同開発(28日)

図研エルミックは、車載イーサネットのオーディオビデオブリッジング(AVB)通信向けのソフトウェアをルネサスエレクトロニクスと共同開発した。

■アイシン精機、次世代監視システム開発(29日)

アイシン精機は、車両後部を合成画像としてバックミラーに映す「シースルーミラー」を開発した。バックガイドモニターを始めとする周辺監視システムの次世代品として開発。

■岩谷産業、都心初の商用水素ステーション開設(29日)

岩谷産業は、東京タワー直下に燃料電池自動車(FCV)向けの

NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社
〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

クローズアップ



ルネサス、イベントで統合コックピット公開

ルネサスエレクトロニクスは2日、東京都内で取引先向けのコーポレートイベントを開催し、車載情報端末やパワートレーン向けなどのラインアップを統合したコックピットを初公開した。(9月3日)

商用水素ステーションを建設すると発表した。9月に着工し、2015年3月の完成を予定している。

9月.....

- アマダ、板材加工で切断から溶接まで一元管理システム (1日)**
アマダは、部品製造に必要な板材の「切断」「曲げ」「溶接」の三つの工程を一元化した生産システムを開発した。各工程で生じる寸法誤差や次の工程への影響などを一つのプログラムに組み込むことで、生産性を大幅に高めることが可能となる。
- ダウ・ケミカル日本、エポキシ樹脂を10月から値上げ (2日)**
ダウ・ケミカル日本(ピーター・ジェニングス社長、東京都品川区)は、エポキシ樹脂の販売価格を10月1日出荷分から改定する。
- 新日鉄住金 名古屋の火災事故で再開発めど立たず (5日)**
新日鉄住金は、3日に名古屋製鉄所(愛知県東海市)の第1コークス炉石炭貯蔵設備で発生した火災事故により、同製鉄所での生産が実質的に停止している状況だ。
- 日本ガイシ、新日鉄住金の材料関連子会社を買収 (5日)**
日本ガイシは、新日鉄住金から同社子会社の日鉄住金エレクトロデバイスの全株式を取得する株式譲渡契約を締結した。
- デンソー、更正処分の取消請求訴訟で勝訴 (6日)**
デンソーは、2010年6月に名古屋国税局から受けた更正処分に対して提起した取消請求訴訟について、名古屋地方裁判所からデンソー側の主張を認める判決を受けた。
- ヤマハ発、日立の表面実装機事業を買収 (8日)**
ヤマハ発動機は5日、日立ハイテクノロジーと日立ハイテクインストルメンツから表面実装機(サーフェスマウンター)事業を買収することで合意した。
- 新日鉄住金、名古屋製作所長事故で会見 (8日)**
新日鉄住金は、名古屋製鉄所(愛知県東海市)で3日に発生したコークス炉の爆発火災事故について、記者会見を開いた。
- 日産とルノー、生産方式統合は来年から (9日)**
日産自動車は、2015年から日産とルノーの世界中にある拠点で生産方式の統合を開始する方針を明らかにした。
- ダイハツ工業、ハイゼットトラックの部品を全量国内調達 (9日)**
ダイハツ工業は、軽自動車「ハイゼットトラック」の部品を国内部品メーカーから全量調達した。
- トヨタ系サプライヤー、来年度生産320万台を想定 (10日)**
トヨタ自動車の仕入先の間で、2015年度も国内生産が堅調に推移するとの見方が広がりつつある。
- トヨタ、部品値下げ要請は前年水準を維持 固定費上昇を考慮 (10日)**
トヨタ自動車は、主要部品メーカーに対して2014年度下期(14年10月~15年3月)の値下げ要請を始めた。
- パイオニア、カーエレ事業に集中 (18日)**
パイオニアがカーエレクトロニクス事業に経営資源を集中する。「現段階でリソースを割けば今後のカーエレの収益を格段に改善できる」と判断し、ホームAV事業の経営統合に続いてDJ機器事業を譲渡し、両事業の経営を切り離す。

■村上開明堂、バックミラーのダイカスト部品生産国内連結子会社を解散 (18日)

村上開明堂は、自動車用バックミラーのダイカスト部品を生産、販売する国内の連結子会社を解散する。

■東海ゴム、住友理工へ社名変更機に非日系向けを開始 (19日)

東海ゴム工業の西村義明社長は、日刊自動車新聞社などのインタビューに応じ、独フォルクスワーゲン(VW)や伊フィアットを始めとする非日系自動車メーカー向け事業の開拓を加速する方針を明らかにした。

■クラリオン、介護サービス企業と介護ロボットで合併 (20日)

クラリオンは、10月2日に介護サービス企業と介護ロボットを企画、販売する合弁会社を設立する。

■日本政策金融公庫、三宅精機にスタンドバイ・クレジット (20日)

日本政策金融公庫熱田支店は、歯車の製造・販売を手がける三宅精機(三宅正己社長、名古屋市南区)のタイ現地法人向けに、現地通貨建てでの資金調達をサポートする「スタンドバイ・クレジット制度」を適用した。

■アルプス電気、HUDと各種センサー融合させ提案 (25日)

アルプス電気は、センサーで視線の向きやジェスチャーを検知しドライバーの意図に合わせて適切な情報を表示するヘッドアップディスプレイ(HUD)を開発した。

■三菱マテリアル、日立ツール株式の過半数を取得 (29日)

三菱マテリアルは、日立金属から同社子会社の日立ツールの発行済株式51%を取得することで合意し、同日付けで株式譲渡契約を締結した。

■ダウ・ケミカル日本、ウレタン原料の2化学材料を値上げ (30日)

ダウ・ケミカル日本は、ウレタン原料のポリオール類とプロピレングリコール類の各製品を値上げする。

■旭硝子、外光の透過率を自由に調整できる調光ガラス (30日)

旭硝子は、外光の透過率を自由に調整できる調光ガラス「ワンダーライト」がメルセデス・ベンツ(MB)の欧米向け新型車「Sクラスクーペ」にガラスルーフ用オプションとして採用された。

10月.....

■丸順とベストテックスキョーエイ、合併が白紙に (1日)

丸順とベストテックスキョーエイ(田中定樹社長、三重県四日市市)は、合併に向けた基本合意を解約した。

■デンソー、20年度までに女性管理職数3倍 (9日)

デンソーは、2020年度までに女性管理職数を現状の約3倍となる100人に引き上げる数値目標を設定した。

■日本政策金融公庫、シミズ精工に新事業育成資金5億円 (10日)

日本政策金融公庫の阿倍野支店は、ベアリング保持器や自動車用変速機部品を手がけるシミズ精工(清水康博社長、大阪市天王寺区)に新加工法による量産設備の資金として5億円を融資した。

■日本特殊陶業、世界初の吸気酸素センター、最適なEGR環境を実現 (16日)

日本特殊陶業は、EGR(排出ガス再循環)システムの最適制御を実現する世界初の吸気酸素センサーを開発した。

■帝人、来月からアラミド繊維製品値上げ (20日)

帝人は、11月1日の出荷分からアラミド繊維を値上げする。

■ホンダ、部品のグローバル調達加速 システム・ルール標準化 (23日)

ホンダは、部品のグローバル調達を加速する。

海外

8月.....

■PTC、クラウド接続関連会社を買収 (27日)

米国のPTC(マサチューセッツ州)は、機械やセンサーなどのクラウド接続ソリューションを手がける米アクシダ社を買収する。

■デンソー、市販コンプレッサー事業拡充へ 中国メーカーに投資 (28日)

デンソーは、中国安徽省のカーエアコン用コンプレッサーメー

カー、合肥達因汽車空調に出資したと発表した。6月24日付で34%を出資した。

■ミネベア、中国で中径軸受け合併事業 (30日)

ミネベアは、中国の軸受けメーカーである寧波美培林軸承有限公司(WT社)と中国で合併会社を設立すると発表した。WT社の既存建屋や設備、従業員を引き継ぎ、10月から操業を開始する。

9月.....

■日立化成、タイヤの連結4社を来年4月に統合 (2日)

日立化成は、タイヤの連結子会社4社を2015年4月に統合する。

■神鋼商事など6社、冷間圧造用鋼線の製造・販売で、メキシコに合併 (4日)

神鋼商事と神戸製鋼所は、メタルワン(東京都港区)、大阪精工(大阪府東大阪市)、シメック(メキシコ・ハリスコ州)、O&Kアメリカン(米・イリノイ州)の4社とメキシコに冷間圧造用鋼線(CHワイヤー)の製造・販売を行う合併会社を設立することで合意した。

■独ZF、米TRW買収で正式契約 (17日)

独ZFは、米TRWオートモーティブを買収すると発表した。15日に正式契約を締結、買収額は約124億ドル(約1兆3268億円)。

■ソルベイ、米シェブロンの特種ポリマー事業を買収 (19日)

ベルギーの化学・プラスチックメーカーのソルベイ(本社=ブリュッセル)は、米シェブロンフィリップス化学(CPCC)から「ライトンPPS(ポリフェニレン・サルファイド樹脂)」事業を2億2000万ドル(約231億円)で買収する契約を締結した。

■豊田自動織機、台湾社のフォークリフト事業を買収 (22日)

豊田自動織機は、台湾のタイリフト社が手がけるフォークリフト事業を買収する。

10月.....

■パナソニック、電子ミラー製品化へスペイン社と業務提携 (2日)

パナソニックは、スペインの自動車部品メーカー大手フィコサ・インターナショナル(ハビエル・ブジョル最高経営責任者、本社=バルセロナ)と資本業務提携の出資契約を締結した。

市場

8月.....

■乗用車メーカーの生産・販売・輸出実績 7月、国内生産11カ月ぶり減 (29日)

乗用車メーカー8社は、2014年7月の生産・輸出・販売実績を発

表した。

9月.....

■7月の生産実績、自動車向け好調で鍛鋼は12カ月連続増 (3日)

日本鍛鋼鋼会は、7月の鍛鋼・鍛鋼の生産実績を公表。

■6月の出荷、合わせ安全ガラス 自動車は好調維持 (3日)

板硝子協会は、6月の「板ガラス生産出荷動向」を発表。自動車向けを主な用途とする合わせ安全ガラスは、生産実績が前年同月比1.2%減の135万1000㎡で2カ月連続の減少。

■自動車タイヤ12カ月連続で増、ゴム製品出荷6月実績 (11日)

日本ゴム工業会は、6月のゴム製品の国内出荷金額を集計した。

■8月工作機械受注額、11カ月連続増 国内外とも堅調 (27日)

日本工作機械工業会が発表した8月分の工作機械受注額(確報)によると、受注総額は前年同月比35.5%増の1281億円と11カ月連続で増加した。

■自動車6社、8月の世界販売 5社で増加 日本の減少を海外でカバー (30日)

乗用車メーカーが29日明らかにした8月の世界販売は実績を公表する6社(ホンダ、富士重工業除く)中、ダイハツ工業以外の5社で前年実績を上回った。

10月.....

■上期新車販売、3年ぶり250万台割れ 増税、やはり大きな影響 (2日)

自販連と全軽自協が発表した2014年度上期(4~9月)の新車販売台数は、前年同期比2.8%減となる247万3656台だった。

■7月の合わせ安全ガラス生産0.4%減、出荷は4.8%減 (10日)

板硝子協会は、7月の「板ガラス生産出荷動向」を発表した。

■乗用車各社、日米中の上期販売実績 米、4社がシェア拡大

日本の乗用車メーカーによる2014年4~9月の日本、米国、中国における販売台数がまとまった。

■3月末保有8027万台、軽増加も登録は減 自検協調べ (16日)

自動車検査登録情報協会が「2014年版わが国の自動車保有動向」を発表。

■9月の鍛圧機械受注、アジア向け不振で4ヵ月ぶり減 (17日)

日本鍛圧機械工業会が「鍛圧機械業況調査」を発表。

■8月のアルミホイール生産・販売2ヵ月連続で減 (23日)

日本アルミニウム協会が「アルミホイール統計月報」を発表。

記者の目

就職戦線は売り手市場に変わり、今後は内定者のドタキャン対策も...

学生数が減少し、就職活動での「売り手」主導が明確になっている。円安を背景とした2013年度の業績改善を踏まえ、大手部品メーカーの7割以上が技術者を中心に大卒者の採用枠を増やしたが、10月1日の正式内定では計画通りの人員を確保した企業が4割に留まっている。

人事関係者が頭を抱えているのは、内定(内々定)辞退者の急増だ。春先にオファーを出していた学生が、8月を過ぎた頃に入社の辞退を申し出るケースが目立つという。過去のような大学側の内定掛け持ちに対する抑制・指導はなく、学生が自由に二股、三股を掛けられる状態となっている。

一方、どこからも内定を取れず就職難に陥っている学生も少なくない。成績が飛び抜けて優秀だったり、自己アピールが得意な学生に人気が集まる、言わばプロ野球の「ドラフト制度」のような状況を招いている。そして、結果的には内定辞退という形で企業各社の採用予定数を満たさないという悪循環が生じているのだ。

経団連が「採用選考に関する指針」を改定したことで、来年度からは新規採用に伴う活動期間が短縮する。企業各社の声を代弁すれば、「内定者の“ドタキャン”が増えないように対策を講じてもらいたい」。(T)



このダイジェストは8月26日~10月25日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連記事を抜粋。詳しくは日刊自動車電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

お知らせ①

平成26年度調査票提出促進運動について

経済産業省大臣官房調査統計グループ

経済産業省が実施する各種統計調査に対して、平素より多大なるご尽力とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

我が国が実施する公的統計につきましては、社会経済の急激な変化や国民生活の多様化など、経済活動の現状を正しく見極める指標として、その果たす役割は一層大きくなっております。ご提供いただく調査票は、経済産業省において集計・加工・分析をした上で公表し、国・地方公共団体の行政施策の基礎資料、商工鋼業における企業経営資料として、さらには諸研究のための貴重なデータとして幅広い活用が予定されています。

経済産業省では、こうした公的統計調査結果の成果をより高めるため、例年より「統計の日」（10月18日）を中心として「調査票提出促進運動」を実施しております。

公的統計の結果データを信頼性高く、かつ、早期

に公表するためには、何より皆様から正確な調査票を所定の期日までにご提供いただくことが最も重要となります。現在、当省が実施している統計調査は、「経済産業省生産動態統計調査」、「商業動態統計調査」、「経済産業省特定業種石油等消費統計調査」、「製造工業生産予測調査」です。

ご多用な中、大変に恐縮ではありますが、当省が実施する統計調査の調査票をご提出いただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

本運動の詳細につきましては、当省のHPにて趣旨等を紹介しておりますので、併せて御参照ください。

URL：<http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/topics/sokushin/index.html>

【平成26年工業統計調査のお知らせ】

平成26年12月31日を調査期日として、平成26年工業統計調査を実施します。企業・事業所のみなさまにおかれましては、お手元に調査票が届きましたら、ご回答いただき、ご提出くださいますようお願いいたします。

お知らせ②

「下請取引適正化推進月間」の実施について

平成26年10月
公正取引委員会 中小企業庁

公正取引委員会及び中小企業庁は、下請取引の適正化について、従来、下請代金支払遅延等防止法（以下「下請法」という。）の迅速かつ効果的な運用、違反行為の未然防止、下請中小企業振興法に基づく振興基準の遵守の指導等を通じ、その推進を図ってきている。

特に、毎年11月を「下請取引適正化推進月間」とし、この期間に下請法の普及・啓発事業を集中的に行うこととしており、本年度の下請取引適正化推進月間においては下記の事業を行う。

記

1. 47都道府県（62会場）において、親事業者の下請取引担当者を対象に、下請法及び下請中小企

業振興法の趣旨・内容を周知徹底するために下請取引適正化推進講習会を開催する。

2. 新聞・雑誌等を通じ、全国的に下請取引の適正化に関する普及・啓発を行う。
3. 都道府県、下請企業振興協会、商工会議所、商工会連合会及び商工会、中小企業団体中央会、事業者団体等の機関紙を通じ、下請取引の適正化に関する普及・啓発を行う。
4. 公正取引委員会、経済産業省、都道府県、中小企業関係団体、事業者団体等の施設にポスター、たれ幕等を掲示することにより、下請取引の適正化に関する普及・啓発を行う。

【問合せ先】

公正取引委員会事務総局経済取引局取引部企業取引課
電話：03-3581-3375

中小企業庁事業環境部取引課
電話：03-3501-1669

以上

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出 (自工会調)

1. 四輪車の生産実績

(単位: 台)

	2014. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計6	対前年 同期比 (%)	2014. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	727,606	107.0	4,319,949	109.1	757,523	97.6	5,077,472	107.2
普 通 車	404,153	105.3	2,368,670	105.2	436,358	100.2	2,805,028	104.4
小 型 四 輪 車	156,632	98.8	939,151	104.2	160,751	89.2	1,099,902	101.7
軽 四 輪 車	166,821	121.5	1,012,128	125.6	160,414	100.0	1,172,542	121.4
ト ラ ッ ク	117,512	104.1	677,566	106.8	123,258	101.2	800,824	105.9
バ ス	12,199	105.8	68,663	102.4	14,065	113.2	82,728	104.1
合 計	857,317	106.6	5,066,178	108.7	894,846	98.3	5,961,024	107.0

2. 四輪車の国内販売実績

(単位: 台)

	2014. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2014. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	379,242	100.1	2,566,548	111.0	391,375	97.4	2,957,923	109.0
普 通 車	110,458	94.9	780,105	111.0	117,881	98.6	897,986	109.2
小 型 四 輪 車	118,579	101.5	774,492	103.6	132,808	101.9	907,300	103.3
軽 四 輪 車	150,205	103.2	1,011,951	117.6	140,686	92.5	1,152,637	113.8
ト ラ ッ ク	72,516	101.6	433,183	109.8	67,859	98.0	501,042	108.1
バ ス	797	103.0	6,076	102.7	1,026	114.1	7,102	104.2
合 計	452,555	100.4	3,005,807	110.8	460,260	97.5	3,466,067	108.9

3. 四輪車の輸出実績

(単位: 台)

	2014. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2014. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	339,891	96.3	1,869,699	94.4	355,272	97.8	2,224,971	94.9
普 通 車	316,240	102.2	1,739,451	102.5	332,275	105.6	2,071,726	103.0
小 型 四 輪 車	23,612	54.4	128,795	45.2	22,916	47.3	151,711	45.5
軽 四 輪 車	39	300.0	1,453	426.1	81	506.3	1,534	429.7
ト ラ ッ ク	40,689	95.2	231,339	99.3	43,315	112.9	274,654	101.2
バ ス	10,335	88.5	66,835	98.5	15,686	128.1	82,521	103.0
合 計	390,915	96.0	2,167,873	95.0	414,273	100.1	2,582,146	95.8

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産 (経済産業省「生産動態統計」)

(単位: 百万円)

		2014. 6月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2014. 7月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	545,775	107.9	3,206,138	105.5	590,824	102.1	3,796,962	105.0
	関連自動車部品 9品目	104,609	100.1	643,399	106.1	114,632	97.0	758,031	104.7
	内燃機関電装品 5品目	35,755	111.3	204,370	109.5	37,845	105.4	242,215	108.8
	二輪車部品 4品目	5,221	106.3	34,513	111.0	5,985	110.8	40,498	110.9
	合 計	691,360	106.8	4,088,420	105.9	749,286	101.5	4,837,706	105.2

			2014. 6月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2014. 7月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	3,514	101.2	20,798	102.4	3,908	101.0	24,706	102.2
	2	ピストンリング	3,706	107.3	20,343	104.5	3,823	100.4	24,166	103.9
	3	シリンダーライナ	1,822	99.6	10,948	106.7	1,954	97.5	12,902	105.2
	4	吸気弁及び排気弁	3,541	100.9	20,981	98.9	3,797	94.4	24,778	98.2
	5	ガスケット	2,542	100.6	14,933	98.8	2,719	98.8	17,652	98.8
	6	燃料ポンプ	1,842	90.4	11,865	93.5	2,046	83.0	13,911	91.8
	7	空気清浄器	2,113	85.2	12,037	79.9	2,211	120.7	14,248	84.4
	8	油清浄器	1,874	110.9	11,437	94.5	2,047	112.8	13,484	96.9
	9	油ポンプ	2,463	110.7	14,455	108.3	2,582	108.3	17,037	108.3
	10	水ポンプ	2,384	103.3	13,994	95.2	2,530	96.2	16,524	95.3
	11	ラジエータ	17,382	113.8	106,743	108.4	18,694	99.7	125,437	107.0
	12	クラッチ装置	5,332	110.6	31,682	106.0	5,913	110.2	37,595	106.6
	13	自動変速装置	185,796	110.2	1,062,404	104.6	203,209	103.0	1,265,613	104.4
	14	ユニバーサルジョイント	3,822	115.4	21,647	112.3	4,066	105.6	25,713	111.2
	15	プロペラシャフト	4,198	88.5	28,426	103.1	5,039	91.1	33,465	101.1
	16	車輪	8,021	93.4	48,240	96.1	8,627	89.5	56,867	95.1
	17	かじ取りハンドル	3,936	89.3	25,542	99.8	4,074	79.0	29,616	96.3
	18	ショックアブソーバ	11,772	118.9	64,860	113.0	12,349	114.1	77,209	113.1
	19	ブレーキ倍力装置	3,056	104.9	17,760	102.4	3,214	104.6	20,974	102.8
	20	ブレーキシリンダ	6,651	104.8	39,406	104.6	6,993	103.4	46,399	104.4
	21	ブレーキパイプ	2,658	106.1	16,190	110.5	2,931	106.5	19,121	109.9
	22	ブレーキシュー	2,922	104.4	17,183	103.0	3,259	102.4	20,442	102.9
	23	燃料タンク	7,439	104.6	44,096	105.1	7,963	101.0	52,059	104.4
	24	排気管及び消音器	27,395	108.5	162,473	107.5	29,836	104.7	192,309	107.1
	25	窓わく	2,673	104.1	16,459	109.7	2,971	100.6	19,430	108.2
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	7,972	92.7	49,387	93.2	8,499	88.1	57,886	92.4
	27	窓ガラス開閉装置	4,922	108.8	27,659	108.3	5,457	103.2	33,116	107.4
	28	シート	65,949	104.9	401,151	106.7	71,470	101.2	472,621	105.8
	29	スイッチ類	13,551	101.1	82,846	102.9	15,039	99.3	97,885	102.3
	30	計器類	11,586	104.9	66,713	100.8	12,557	104.4	79,270	101.4
	31	窓ふき	7,338	104.0	44,572	108.1	7,919	96.6	52,491	106.2
	32	警音器	1,387	108.7	8,018	103.6	1,533	102.5	9,551	103.4
	33	暖房装置	8,218	93.1	52,992	97.7	9,052	87.5	62,044	96.1
	34	電子式ブレーキ制御装置	16,197	111.3	93,936	109.0	16,831	98.5	110,767	107.3
	35	シートベルト	7,772	103.4	48,505	109.1	8,148	102.1	56,653	108.0
	36	エアバッグモジュール	7,197	117.3	42,495	116.5	8,205	115.0	50,700	116.3
	37	気化器・燃料噴射装置	20,995	108.1	124,442	100.8	22,322	97.6	146,764	100.3
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	37,558	109.3	214,692	106.0	39,720	102.0	254,412	105.4
	39	軸受メタル	4,059	170.0	24,910	177.4	4,245	187.7	29,155	178.9
	40	ブッシュ	2,940	133.4	15,862	124.4	3,141	125.8	19,003	124.7
	41	オイルシール	9,280	130.6	53,056	129.9	9,931	124.8	62,987	129.0
		合 計	545,775	107.9	3,206,138	105.5	590,824	102.1	3,796,962	105.0
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	8,617	112.2	49,600	108.9	9,315	102.8	58,915	107.9
	2	かさね板ばね	2,326	97.9	13,623	100.6	2,593	106.1	16,216	101.4
	3	つるまきばね	2,016	96.8	12,103	101.1	2,198	92.6	14,301	99.7
	4	線ばね	4,994	103.9	28,828	102.4	5,451	104.3	34,279	102.7
	5	カークローラ	25,577	103.0	150,932	102.4	27,962	98.2	178,894	101.7
	6	自動車用器具	28,427	105.8	180,110	111.9	31,039	103.1	211,149	110.5
	7	自動車用電球	1,005	127.7	5,879	121.8	1,043	123.7	6,922	122.1
	8	カーオーディオ	3,474	111.0	20,606	118.9	4,035	107.2	24,641	116.8
	9	カーナビゲーションシステム	28,173	88.2	181,718	103.0	30,996	86.5	212,714	100.2
		合 計	104,609	100.1	643,399	106.1	114,632	97.0	758,031	104.7

指標・統計

		2014. 6月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2014. 7月分	対前年 同比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1 ダイナモ	7,262	106.3	42,721	104.6	8,125	100.2	50,846	103.8
	2 スタータ	8,704	120.7	49,248	115.2	8,904	105.2	58,152	113.6
	3 ディストリビュータ	652	86.9	3,825	82.6	728	89.7	4,553	83.6
	4 イグニッションコイル	7,009	94.6	42,693	96.0	7,651	91.5	50,344	95.2
	5 プラグ	12,128	122.3	65,883	122.2	12,437	122.5	78,320	122.3
	合計	35,755	111.3	204,370	109.5	37,845	105.4	242,215	108.8
二輪自動車 部品 (4品目)	1 気化器	713	111.6	4,648	106.9	785	97.6	5,433	105.4
	2 ショックアブソーバ	1,785	89.4	11,973	94.1	2,300	115.6	14,273	97.0
	3 計器類	1,123	97.7	7,133	92.1	1,281	96.5	8,414	92.8
	4 ブレーキ装置	1,600	141.8	10,759	171.2	1,619	126.4	12,378	163.6
	合計	5,221	106.3	34,513	111.0	5,985	110.8	40,498	110.9

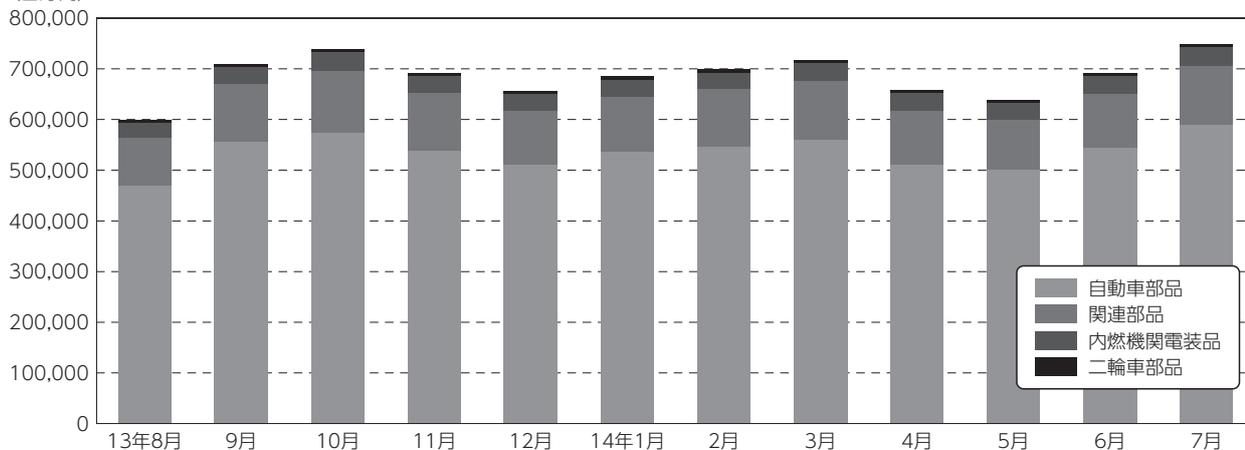
(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

- ①平成21年1月より「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。
- ②平成23年1月より「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。
- ③平成26年1月より品目の掲載順序を一部変更。
- ④平成26年1月より「エアバッグモジュール」の定義を変更。

そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。
 接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

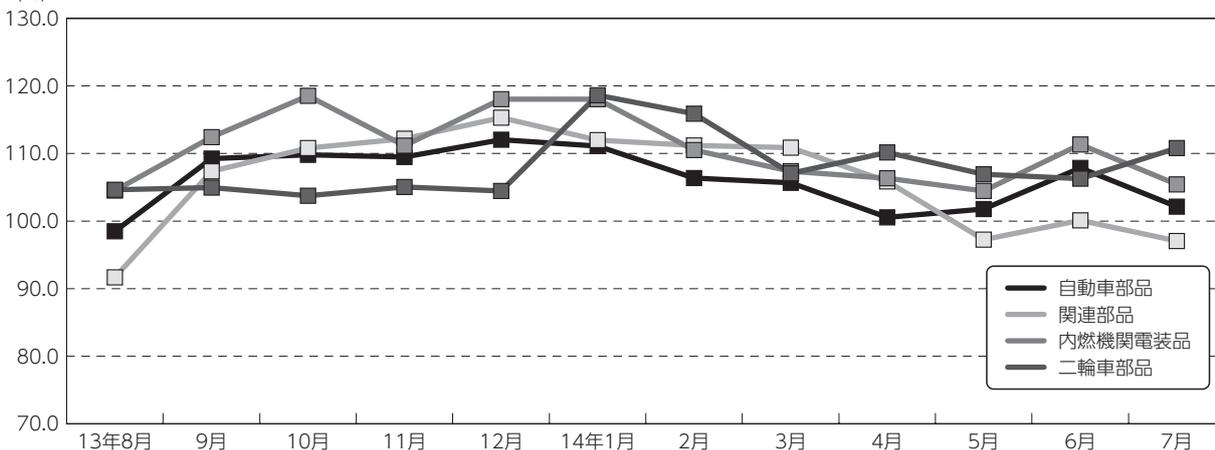
最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



JAPIA NEWS

2014
11・12
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻704号)

目次

- 05 | **巻頭言**
副会長・藤森 文雄
- 07 | **【リクルート特集】**
これからの採用活動におけるキーワードとは…
企業アピールも必要だが業界のアピールも重要
- 11 | **特別寄稿**
新たなハイブリッド“48V”
株式会社ローランド・ベルガー 長島 聡／高野 飛鳥
- 14 | **工業会業務レポート・スケジュール**
- 19 | **支部活動レポート**
中部支部
- 21 | **委員会部会だより**
総合技術委員会 基準認証部会
問題解決とメリット共有、
そして海外連携を積極化
部会長 兵藤 公則
- 23 | **会員企業紹介**
三和ニードルベアリング株式会社
- 25 | **日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト**
- 28 | **お知らせ**
- 29 | **指標・統計**

平成26年11月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

JAPIA会員企業様向け

最新のTS16949セミナーの情報・案内等は…

www.lapj.co.jp まで

ISO教育コンサルティング
株式会社エルエーピー

LAP ISO
Lead Auditor Project Team



〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp

よい品、より安く

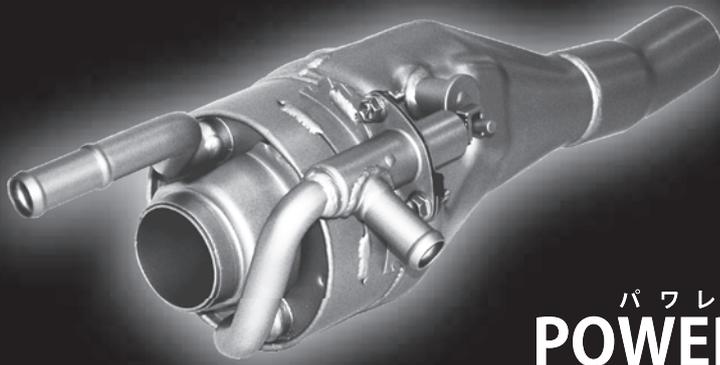
事業内容

◇自動車部品製造

排気系部品、ボデー骨格部品、
内・外装機能部品、足回り部品、
燃料系部品

◇情報環境機器部品製造

◇専用溶接設備、金型製造



パワレヴ
POWEREV®

(排気熱回収器)

排気ガスの熱を冷却水に伝えることで
エンジンの暖機を促進させ、燃費と
暖房性能の向上に貢献します

FUTABA
FUTABA INDUSTRIAL CO.,LTD.

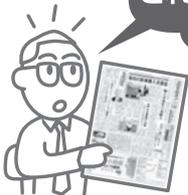
フタバ産業株式会社
愛知県岡崎市橋目町字御茶屋1番地 TEL 0564-31-2211
URL <http://www.futabasangyo.com/>

どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック! 新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、業界動向をリアルタイムでお伝えします。電子版でしか読めないコンテンツが満載。気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

これでビジネスの幅が
広がります!



海外でも
読める
紙面には
ない
最新情報



外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。



スマホでも
見られる

過去の記事もすぐに見られる
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。



過去の記事
2013年
2012年
2011年



速報
機能



無料のお試し購読はこちらから <http://www.netdenjd.com/> 検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319

E-mail: hanbai@njd.jp

自動車業界初！業界専用就活Webサイト

Mobi-Navi

これまでの総合就活サイトでは難しかった
自動車業界専用の就活サイト！

Mobi-Naviだからできる出会いのコンテンツが満載！

2016年3月卒業（見込）生、求人企業申し込み受付中！



©上記サイトイメージは、公開時に変更される場合があります。

全国の学生に発信！

Mobi-Job(自動車業界向け就活情報紙)を全国の大学に配布している実績から、全国の大学生が対象です。Uターン、Jターン、Iターンなど、首都圏以外の就職希望者も多数登録。

業界特有のコンテンツが充実！

専門用語集、業界関連図、業務内容説明、業界ニュースなど自動車業界に合わせたコンテンツを準備！

低価格設定！

1掲載15万円の低価格設定！

おすすめ求人(※)で、TOPページに掲載も可能！

全登録学生を参照可能！

登録をしているすべての学生を参照する事が可能です。登録学生の中に、気に入った方がいらっしゃれば、個別にスカウトメールを送信することもできます。

応募から内定までを管理！

応募から内定までの採用業務をオンラインで管理が可能です。

【価格】(税込み)

掲載料：15万円(通年)

おすすめ求人：5万円(2週間)

※別途オプション費用がかかります

www.mobi-navi.com/

Mobi-Naviは、日刊自動車新聞社85周年記念事業です。

日刊自動車新聞社

お問い合わせ：営業局 Mobi-Navi 推進室 TEL:03-5777-2621



世界の道で、
乗る人の「うれしさ」を
学び続ける。

そのクルマは、ヨーロッパの石畳を走るかもしれない。

そのクルマは、灼熱の砂漠を走るかもしれない。

そのクルマは、極寒の凍結路を走るかもしれない。

アイシン精機、特殊試験路。ここには世界のあらゆる道がある。

どんな環境でも満足してもらえる一台のために、このテストコースで
コンピュータで究めた製品を、さらに、乗る人の気持ちになって鍛えあげていく。

すべては、クルマの部品やシステムの開発段階から、
乗る人の“うれしさ”を学び、求められているものをカタチにするために。

AISIN

One Team, Best Future

アイシン精機株式会社 〒448-8650 愛知県刈谷市朝日町2丁目1番地 www.aisin.co.jp